

平成28年度

「観光ビジョン推進地方ブロック戦略会議」 (案)について

* 観光庁作成資料

北海道ブロック連絡会
平成28年12月

「観光ビジョン推進地方ブロック戦略会議」について(案)

ブロック戦略会議

- 「明日の日本を支える観光ビジョン」の実現に向け、国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化、文化財の観光資源としての活用等を含め、我が国の観光資源の魅力を高めることが必要。
- 各地域でこれらの施策を実施するために、それぞれの地域において各省庁に跨がる課題であっても迅速に解決を図るべく、幅広い関係省庁や多数の関係者との連携・調整が不可欠。
- 各地域における観光ビジョン掲載施策の具体的な取組の推進を図るべく、既存のブロック連絡会を発展的に改組し、関係省庁の地方支分部局も構成員とする「観光ビジョン推進地方ブロック戦略会議」を設置・開催する。

例) 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化 → 地方環境事務所、観光関係団体、地方公共団体

構成員

既存の北海道ブロック連絡会の構成員 + 新設されるWGに關係する未加盟機関

- ・各WG毎の課題及びその解決の進捗状況についてWGから報告を受ける。
- ・WGからの報告も踏まえ、ビジョンの具体化の状況及び対策方針をとりまとめ、観光庁に報告。

必須

関係省庁の地方支分部局
都道府県、政令市等関係する自治体

任意

観光振興機構、経済団体、交通事業者、
旅行事業者・団体、宿泊事業者・団体 等

WG

報告

報告

報告

- どのようなWGを設置するかについては、地域毎に決定。
(ただし、地域ブロック別連絡会の課題・分野別WGとして既に設置されているものは原則、継続して設置。)
- WGの構成員において進捗状況を取りまとめ、少なくとも年1回ブロック戦略会議に報告

(WGの内容イメージ)

既存WG

既存の北海道ブロック連絡会に課題・分野別WGとして既に設置されているWGは、
原則、継続して設置。

航空・港湾WG

開発局、運輸局、航空局、
北海道、観光振興機構、
旅行業協会、空港管理者、
港湾管理者、航空事業者
等

交通WG

運輸局、開発局、航空局、
北海道、札幌市、経済団
体、観光振興機構、旅行
業協会、鉄道事業者、交
通事業者
等

観光WG

運輸局、開発局、北海道、
札幌市、観光振興機構、
旅館協会、ホテル協会、
旅行業協会、鉄道事業者
等



新設WG

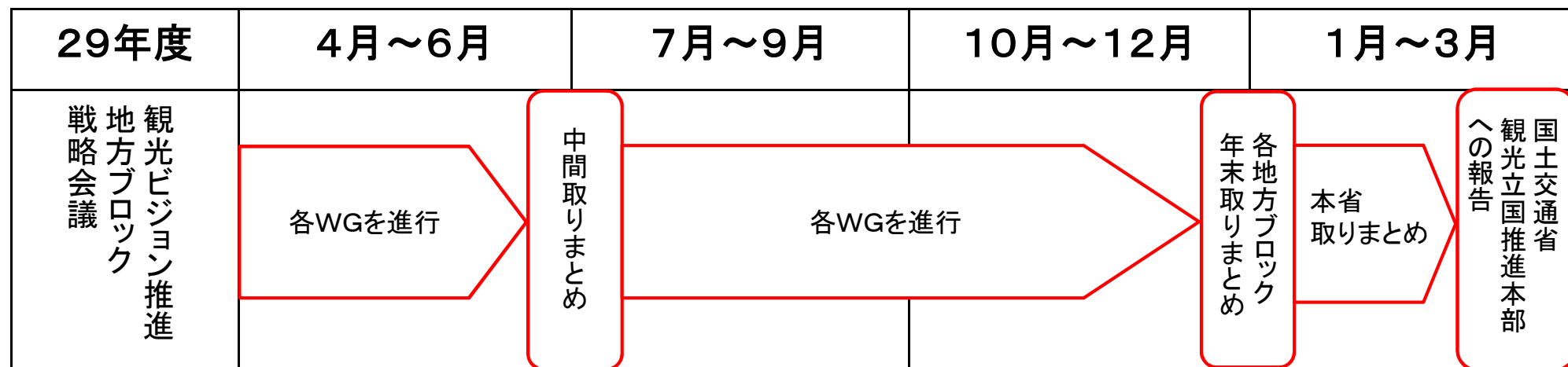
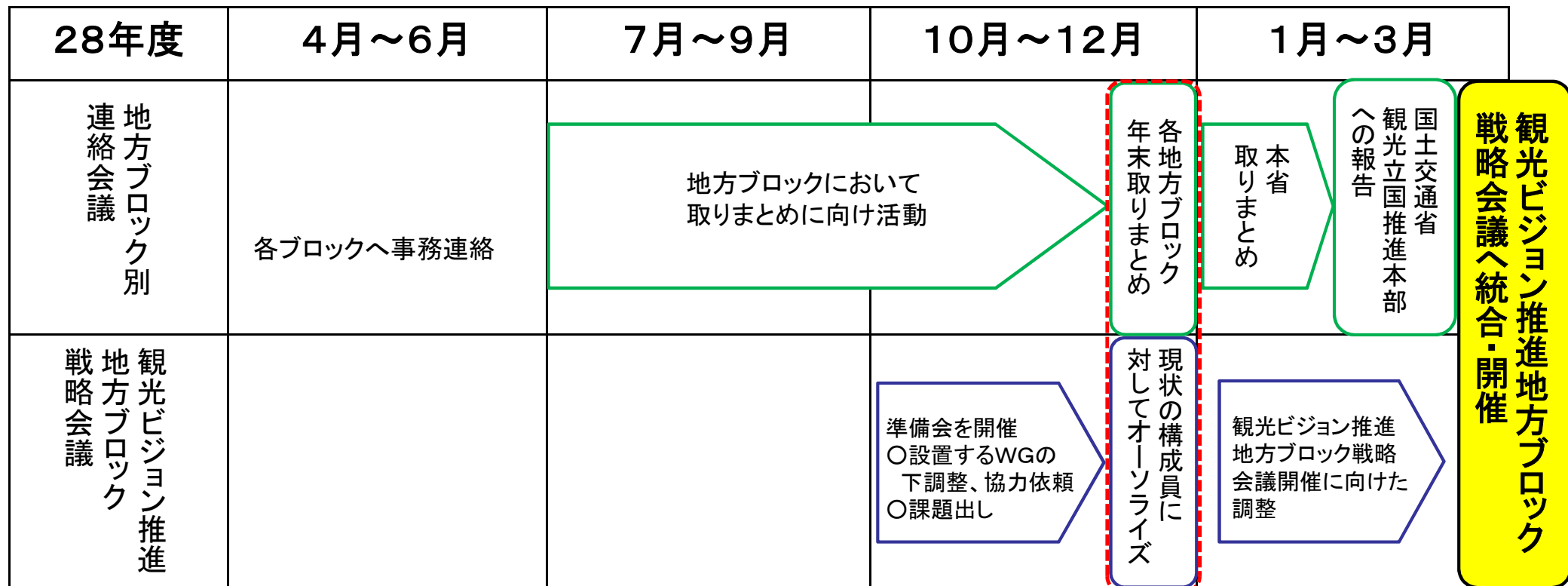
観光ビジョン地方ブロック戦略会議の設置に伴い、
新たに設置。(既存WGへの統合も含む。)

観光資源魅力向上WG(仮称)

(国立公園のナショナルパーク化、文化財の観光資源化、
迎賓館等の公的施設の公開等を基本的に議論する場とする)

運輸局、開発局、航空局、農政事務所、経済産業局、総合通
信局、環境事務所、教育委員会、旅行業者、都道府県、政令
市等関係する自治体、観光関係団体・事業者、JNTO 等

「観光ビジョン推進地方ブロック戦略会議」のスケジュール(イメージ)



これまでの議論を踏まえた課題

■ 我が国の豊富で多様な観光資源を、誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことが必要。

■ 観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産業へと変革していくことが必要。

■ CIQや宿泊施設、通信・交通・決済など、受入環境整備を早急に進めることが必要。
■ 高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくことが必要。

「観光先進国」への「3つの視点」と「10の改革」

視点 1

「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」

- **「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放**
 - ・赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放
- **「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ**
 - ・2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化
- **「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ**
 - ・2020年を目標に、全国5箇所の公園について民間の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善
- **おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ**
 - ・2020年を目途に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定

視点 2

「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」

- **古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ**
 - ・60年以上経過した規制・制度の抜本見直し、トップレベルの経営人材育成、民泊レベルの整備、宿泊業の生産性向上など、総合パッケージで推進・支援
- **あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現**
 - ・欧州・米国・豪州や富裕層などをターゲットにしたプロモーション、戦略的なビザ緩和などを実施
 - ・MICE誘致・開催の支援体制を抜本的に改善
 - ・首都圏におけるビジネスジェットの受入環境改善
- **疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化**
 - ・2020年までに、世界水準DMOを全国100形成
 - ・観光地再生・活性化ファンド、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現

視点 3

「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

- **ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現**
 - ・世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変
 - ・ストレスフリーな通信・交通利用環境を実現
 - ・キャッシュレス観光を実現
- **「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現**
 - ・「ジャパン・レールパス」を訪日後でも購入可能化
 - ・新幹線開業やコンセクション空港運営等と連動した、観光地へのアクセス交通充実の実現
- **「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現**
 - ・2020年までに、年次有給休暇取得率70%へ向上
 - ・家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要の平準化